

大谷大学短期大学部 自己点検・評価報告書
2016年度

仏教科

幼児教育保育科

<自己評定> A	<委員会評定> A
1. 【2016年度の目標等】	
[目標]	
卒業研究の作成を2年間の学修の集大成として位置づけ、さらにきめ細やかな指導体制の充実を図る。	
[達成基準]	
卒業研究提出率100%を達成する。	
[行動計画]	
2014・2015年度の行動計画を2016年度も引き続き実施するが、特に以下の2点に重点的に取り組む。	
① 開講科目シラバスの確認と卒業研究題目の関係性の確認と検討	
仏教科開講科目のシラバスに提示している学修内容・到達目標と、学生に提示する卒業研究題目との有機的連携を明確にするために、シラバスの内容に検討と確認を加え、必要に応じて卒業研究題目の再検討と見直しを行う。	
② 1年次の学修から2年次の卒業研究作成への連続性を明確にした指導を行う。	
2015年度以前より1年次学生も参加する形で卒業研究中間発表会を実施しているが、これに加えて、1年次の各授業において卒業研究題目との関連を明確にしながらい指導を行うほか、演習を中心とする授業や課題レポートへの取り組みを通して、「読む・調べる・考える・書く」という、卒業研究作成に必要なとされる基礎技術の習得を促す。	
2. 【2016年度の達成状況報告】	
① 5月19日(木)、所属教員会議を開催し、卒業研究・修了レポート指導担当教員の分担を決め、卒業研究題目(主題)の選択リスト、指導の方針を確認した。	
② 6月6日(月) 実践仏教コース・真宗大谷派教師資格取得コース題目決定相談会実施。(学生・指導教員・副査担当教員参加 会場：講堂棟5階談話室)(根拠資料「題目決定相談会」開催案内) *人間とこころコースは指導教員と個別に実施。	
9月15日(水)～16日(木) 一夜研修会(第1回中間発表会)実施(学生・指導教員・副査担当教員参加 場所：セミナーハウス)(根拠資料「一夜研修会」開催案内)	
10月27日(木) 第2回中間発表会実施(1年次・2年次学生・指導教員・副査担当教員参加 場所：慶聞館K415)(根拠資料「中間発表会」開催案内)	
12月1日(木) 仏教科関係教員会議開催 卒業研究・修了レポート取り組みの状況、口述試問における学生ごとの留意点を指導教員・副査担当教員で確認。(根拠資料「仏教科関係教員会議」開催案内)	
12月中旬、口述試問実施。試問終了後、学生の状況に応じて追加レポート等の課題を提出させた。また全員に卒業研究・修了レポート要旨を提出させ、『仏教研究紀要』39号として刊行。(根拠資料「口述試問」日程案内)および『仏教研究紀要』39号)	
*その他、論文作成のために仏教科一般研究室の開室時間の延長、休日開室を行ったほか、各授業担当者が一般研究室に可能な限り赴き、論文作成指導を随時行った。	

3. 【点検・評価】
[効果が上がっている事項]
<ul style="list-style-type: none"> ・ 題目決定に時間をかけることによって、その後の論文作成にスムーズに移行できた。 ・ 2回にわたる発表会の実施により、学生各自の取り組みに対して、学生相互の質疑・議論が従来よりも活発に行われた。 ・ 本年度卒業研究・修了レポート提出率 100%を達成できた。1年次に第2回中間発表会（2014年度より実施）に参加し、題目の決定・論文の作成に対する積極的な意識が高まった成果と考えられる。
[改善すべき事項]
<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業研究提出率 100%は達成できたが、完成までの過程で欠席が多く十分な指導が受けられない学生が数名あった。結果的に1名は口述試問に合格できなかった。個々の学生の状況に応じた指導方法を検討し、平素の授業への出席をふまえた論文作成指導の環境を構築する必要がある。
4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること
<ul style="list-style-type: none"> 「題目決定相談会」開催案内 「一夜研修会」開催案内 「中間発表会」開催案内 「仏教科関係教員会議」開催案内 「口述試問」日程案内」 『仏教研究紀要』39号

<自己点検・評価委員会使用欄>
<p><所見></p> <p>仏教について学び、卒業研究を仕上げるには、2年間という期間は非常に短いですが、1年生のときから定期的に発表会などを開いて、卒業研究作成への動機付けとペースメーカーとしての役割を導入に、卒業研究の提出率を100%に出来たことは評価できる。全体として成果は上がっていると思われるが、一部、その流れに着いて来れない学生については、改善すべき事項にあるように、さらに別の方法を用いてきめ細かい指導をする必要があるであろう。</p>

＜自己評定＞ C	＜委員会評定＞ C
1. 【2016年度の目標等】	
[目標]	
定員の充足	
[達成基準]	
募集定員の充足。2017年度入学者20名を目標とするが、最低でも全収容定員の50%以上を確保する。	
[行動計画]	
① 大学当局・入学センターとの連携をはかりながら広報・学生募集活動を行う。	
② 大学の学生募集活動以外にも所属教員個別に広報・学生募集活動を行う。	
2. 【2016年度の達成状況報告】	
・入学センターと連携しながらオープンキャンパス・AO入試等を通じて、仏教に関心のある学生を一人でも多く受け入れられるように努力した。オープンキャンパスやAO入試を担当した教員は、短期仏教科研究室の優れた学習環境・指導体制について丁寧に説明するよう心がけた。	
3. 【点検・評価】	
[効果が上がっている事項]	
・残念ながら達成基準を満たすには至らなかった。	
[改善すべき事項]	
・2017年度が短期仏教科学生募集の最終年となった。今後は在学する学生および科目等履修生・真宗大谷派教師資格取得コース生の指導に力を注ぎ、全員が卒業・修了できるように丁寧な指導を続けて行く。	
4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること	

＜自己点検・評価委員会使用欄＞

＜所見＞

入学者増加に向けて、様々な広報・学生募集活動を行ったにも関わらず、目標の定員50%以上を実現できないままで学生募集が終了したことは大変残念なことである。目標が達成できなかったのは、単に教員の努力の問題ではなく、社会や高校生の仏教に対する関わり方によるところが大きく、大学教員としてはいかんともしがたいものがあったのであろう。

<自己評定> A	<委員会評定> A
1. 【2016年度の目標等】	
[目標]	
学生が自分にあった進路・就職先を選択できる環境を整え、支援を充実させる。	
① 就職率 100%を目指す。(※就職率は【就職者/希望者】で計算する。)	
② 公務員を志望する学生に対する支援として公務員試験対策を充実させる。	
[達成基準]	
行動計画に挙げた内容を実行した結果、就職率 100%に達した場合、目標達成できたものとする。	
[行動計画]	
① 学科とキャリアセンターとの連携を密にして学生の進路・就職に向けた支援を行う。1年次からの「進路・就職ガイダンス」(キャリアセンター主催)について学科の指導や行事との関連において、学生の学びの実情に合ったものとなるよう、日程や内容を検討するとともに学生への周知の徹底を図る。	
② 2年生対象の「進路・就職ガイダンス」については、直前指導として日程を追加し、7月に就職活動本番に向けた内容を新設する方向で準備を進める。	
③ 公務員対策として模擬試験および対策講座(5月、12月)への参加を促す。公務員を希望する学生については早い時期からの対策が有効であるので、意識付けを含め支援していく。	
2. 【2016年度の達成状況報告】	
目標①→行動計画①について	
1. 就職率(就職者/希望者) 100% (2017年3月末現在)	
2. キャリアセンターとのミーティングを月1回、主に以下のような内容で行った。	
(1)進路・就職ガイダンスについて(日程・内容の検討、事後の振り返り)	
(2)学生の就職活動状況についての情報共有就職説明会(幼稚園、保育所)について	
(3)公務員試験対策について	
(4)その他 就職園への採用御礼訪問、就職説明会、等	
→学科とキャリアセンターとの連携により、進路・就職ガイダンスへの出席者数が安定し(※効果が上がっている事項1)、学生指導や園との対応を早い段階で行うことができた。(※効果が上がっている事項2)	
目標①→行動計画②について	
第2学年対象の進路・就職ガイダンスに就職活動直前指導を追加し、今までのガイダンス内容の総復習を行った。学生にとって、就職活動全体の流れを理解することで具体的な行動計画を立てることにつながった。(※効果が上がっている事項3)	
目標②→行動計画③について	
1. 公立正職員合格率(合格者/受験者) 33.3% (2017年3月末現在)	
非常勤、嘱託等の任期付き職員を含めると 100%	
2. 公務員試験対策として、2回(5月、12月)の模擬試験を実施した際、まず、一次試験突破を目指し、個別に受験準備の進め方などの助言を行った。	

3. 【点検・評価】

[効果が上がっている事項]

目標①に関して

1. 学生の出席率が、日程・時限により大きく変化することから、学科行事や授業との関連を考慮し、掲示や呼びかけにより学生への周知を行った結果、第1学年、第2学年ともに安定した出席者数が得られた。ただ、第1学年の4回目については、保育実習（2月）のためのオリエンテーションや、時期的にも体調不良による欠席者が多く出た。また、第2学年の5回目については、保育実習（8月施設、9月保育園）のためのオリエンテーションや教育実習後の実習簿受け取りなどの時期と重なり、出席できない学生が出た。（欠席者については、後日、個別対応を行った）

※第1学年（69名）

第1回（4/12）67名 95.7%
第2回（4/27）62名 88.6%
第3回（5/11）68名 97.1%
第4回（1/12）47名 67.1%

第2学年（84名）

第1回（4/6）80名 94.1%
第2回（5/11）78名 91.8%
第3回（5/18,5/19）77名 90.6%
第4回（7/6）76名 89.4%
第5回（7/13）65名 76.5%

2. 学生指導に関して、キャリアセンターからの指導と、学科の指導の行き違いがないようにミーティングの際だけでなくこまめに確認しあうことで、学生指導内容の共有、その後の対応の確認を早い段階で行うことができた。
3. 就職活動直前指導の実施により、学生が具体的な行動計画を立てることができ、キャリアセンターへ積極的に来課する学生が増えた。それにより、新しい情報の提供など個別対応が速やかに行えた。

目標②に関して

グループ面接、個人面接の準備として、面接練習を丁寧に行うことが最終合格につながった。

[改善すべき事項]

目標①に関して

キャリアセンターへ積極的に来課する学生が増えた一方で、まだ、なかなか来課しない学生や職種希望の変更についても手立てが必要である。面談を通して、学生が自分にあった進路・就職先を選択できる環境を整え支援を充実させたい。

目標②に関して

1次試験を突破したものの、最終合格に結びつかなかった学生の一つの原因として面接練習への積極性が挙げられる。面接を積極的に受けに来た受験生は、精神的な余裕を持つことができ当日に力が発揮できたものと思われるので、来年度のガイダンスでも最後まで意識を高く持ち続けることの指導を行うとともに、個別にも声かけを行うことが必要である。

また、12月の受験者数が少ない（5月は17名、12月は4名）ため、早い段階からの意識付けが必要である。ただ、12月は学科行事や課題提出など学生にとって時間的な問題があり、時期の検討も必要である。

4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

会議資料・ガイダンス資料

<自己点検・評価委員会使用欄>

<所見>

目標、行動計画に基づき、着実に取り組みをすすめており、特に就職率 100%達成という点は、高く評価できる。改善すべき事項を踏まえ、更に学生一人ひとりに応じた学科のキャリアサポートを充実させていただきたい。評価は A とした。

<自己評定> B	<委員会評定> B
1. 【2016年度の目標等】	
[目標]	
学生の学習意欲と学力（広義）の向上を目指して、授業の充実を図る。	
[達成基準]	
2年間の科目間のシーケンスを確認し、授業の充実を図るために、	
① シーケンスを確認するための基礎資料を作成する。	
② 学科会議で、授業の方法や工夫について情報交換し、記録に残す。	
[行動計画]	
① シーケンス一覧表の基礎資料を作成する。	
・各教員が担当科目間の関連性に注目しながら、授業でねらっている内容をまとめるための様式を作成する。	
・教員ごとに上記の様式に記入する。	
・提出されたものをワーキンググループにて整理し、学科で共有する。	
② 学科会議において授業での工夫点などを共有し、課題や対応を検討する。	
2. 【2016年度の達成状況報告】	
① シーケンスのひな型を作成した。	
② 授業の方法や工夫について学科会議で教員が報告した。	
3. 【点検・評価】	
[効果が上がっている事項]	
言語表現の授業内容を受けて、保育実習指導1の授業において、実践的に活用できる力を養うことができた。具体的には、絵本の読み聞かせにおいて基礎から応用へと展開した。	
[改善すべき事項]	
シーケンスの一覧表を完成させ、互いに授業の連携を図ること。	
4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること	
① シーケンスのひな型	
② 「授業の方法・工夫の取り組み」発表時の資料	

<自己点検・評価委員会使用欄>
<所見>
目標、行動計画をもとに、授業内容の充実をはかるため、学科独自のシーケンス（ひな型）を作成するなど、取り組んでいることは認められる。効果が上がっている事項において、具体的な授業について記述されているが、学科全体の授業の充実化へと展開するため更なる工夫と努力を期待したい。評価はBとした。

<自己評定> A	<委員会評定> S
1. 【2016年度の目標等】	
[目標]	
<p>これまでの実績をさらに継続・発展させていく。</p> <p>① 地域の子育て支援活動へ継続的に取り組み、さらに拡充し、京都市・北区と連携し拠点化を図る。</p> <p>② 地域貢献と同時に、研究及び学びの場としての役割を明確にする。</p>	
[達成基準]	
<p>① 「すくすく赤ちゃん広場」を継続して実施する。</p> <p>② 紫明学区での子育て支援活動を継続・発展させる。</p> <p>③ 北区内での様々な子育て支援活動を継続・発展させる。</p> <p>④ リレー講座の試行及び修正を行う。</p>	
[行動計画]	
<p>① 「すくすく赤ちゃん広場」を継続する。(2016年度も10月実施予定)</p> <p>② 北区内における子育て支援活動拡充のため、拠点化を推進する。</p> <p>③ 子育て支援及び教育・研究の場としての施設・設備について、具体化へむけた検討を実施する。</p> <p>④ 大谷幼稚園でのリレー講座は継続する。実習園でも実施できるか働きかけてみる。</p>	
2. 【2016年度の達成状況報告】	
<p>① 「すくすく赤ちゃん広場」を10月21日(金)午前10時～11時30分実施した。</p> <p>参加者は、125名(赤ちゃん61名、母親60名、父親4名)で、スタッフは学生77名を含めて143名と大盛況であった。</p> <p>*スタッフ：北区民生児童委員会・大谷大学短期大学部幼児教育保育科(学生)・北区社会福祉協議会・北保健センター・北子ども支援センターより構成されている。</p> <p>②-1：北区と連携して、「赤ちゃんにこちゃんサロン(8回目～10回目*昨年度は5回目～7回目が実施された)」を3回実施した。</p> <p>*一昨年度、昨年度と大変好評だったことから、本年度も継続して3回中2回が大谷大学を会場に実施された。*以下、内容確認。</p> <p>8回目は8月9日：紫明幼稚園にて(わらべ歌・手遊び・ベビーマッサージ・水遊び等)実施。</p> <p>9組19名の親子が参加され、スタッフとして学生7名教員2名が関わった。</p> <p>9回目は12月21日：大谷大学4号館1階多目的室にて(わらべ歌・手遊び・絵本・ツリー作り等)実施。6組12名の親子が参加され、スタッフとして学生8名教員1名が関わった。</p> <p>10回目は2017年3月8日：大谷大学4号館1階多目的室にて(わらべ歌・手遊び・絵本等)実施予定。</p> <p>*昨年度に引き続き大谷大学は、交通が便利であり室内が明るく安全にも配慮された空間であることから大変好評であり、和やかな雰囲気楽しんでいただけた。</p> <p>*北区から、今後もさらに引き続き連携の要望が出ている。</p> <p>②-2：北区内における子育て支援事業の一環として、本年度も北保健センターの「2歳児のこころとことばの成長」教室に大谷大学短期大学部幼児教育保育科2年生が学生ボランティアとして参加した。</p>	

1 回目は 6 月 29 日：楽只児童館にて実施。学生 8 名学科教員 1 名が関わった。

2 回目は 1 月 18 日：大宮西野山児童館にて実施。学生 8 名学科教員 1 名が関わった。

③ 北区内における子育て支援活動の拡充として、昨年度に引き続き本年度も、京都市保育課主管の子育て支援事業「いないいないばあ教室」を本学において開催してほしいとの強い要望により、2 クール（6 回／1 クール）の 12 回を実施した。1 クールの内容は①自己紹介、おもちゃ作り ②離乳食の話 ③0 歳児担任との話（楽只保育所にて） ④健康についての話 ⑤ほっこり子育て広場（テーマを決めておしゃべり会） ⑥参加者のリクエスト活動であり、この内容を 2 クール実施した。

また本年度は、本学教員による特別講座を 2 回開催した。

実施日は、以下の通りである。

第1クール：①5月20日 ②6月3日 ③6月10日 ④6月17日 ⑤7月1日 ⑥7月15日

第2クール：①9月30日 ②10月7日 ③10月14日 ④10月28日 ⑥11月18日

特別講座：①10月5日（水）10:30～12:00 慶聞館 403 教室

テーマ：「子どもと絵本」 参加者 10 組の親子

担当者：藤本芳則、小川晴美、矢野永吏子、富岡量秀

②2017年3月13日（月）10:30～12:00 慶聞館 405 教室 実施予定

テーマ：「乳幼児の感覚と育ちへの寄り添い」 参加者未定

担当者：小川晴美、矢野永吏子、富岡量秀

*本年度の京都市北区で行われた子育て支援事業は、北区と大谷大学との包括協定に基づき、「覚書」を交わし、展開している。その理由としては、学生のボランティア活動をより安心して行うことができ、且つ円滑に推進するためである。と同時に、北区における子育て支援事業の拠点としての大谷大学の位置付けを明確化した。

*本年度の「いないいないばあ教室」の取り組みは、大谷大学短期大学部幼児教育保育科の学生有志のボランティアチーム（子育て支援チーム）を形成し、展開した。その具体的な成果として、京都市の意向による子育て支援事業を社会に広める広報活動を学生主体で展開したことが挙げられる。京都新聞社、京都リビング新聞社、産経新聞社、共同通信社、読売新聞社、朝日新聞社の 6 社へのプレゼンテーションを学生が行い、各社から高い評価を受けるとともに、学生自身の学びを深め、経験による自信を高めたと考える。

④ 大谷幼稚園でのリレー講座実施および行事参加

・大谷幼稚園での本学科教員による子育て講座

第 1 回 11 月 2 日「親子でリズム運動を楽しもう」 講師：岡村明日香、矢野永吏子

参加者：17 組 20 名の親子

・藤棚祭りへの参加

2016 年 8 月 31 日（水）10：00～12：00 主催：大谷幼稚園保護者会

参加者 幼稚園：園児 169 名 教員 18 名 保護者約 24 名

大谷大学短期大学部幼児教育保育科：1 年生学生 72 名 学科教員 5 名

⑤ 施設・設備については、さらに充実させるために「学長裁量経費」に採択されたことと、京都市の「学まち連携大学」促進事業に採択されたことから、「木製ボールプール」を購入設置することとし、その他乳幼児関係の備品などを適宜整備する計画であり、魅力的な子育て支援環境づくりを進める。

3. 【点検・評価】

[効果が上がっている事項]

効果が上がっている事項

目標①としては、「すくすく赤ちゃん広場」、「赤ちゃんにこちゃんサロン」、「いないいないばあ教室」の継続的な実施を通して、高い評価と信頼関係を築き続けてきた。その結果として本学は、北区内での子育て支援事業において、確固とした位置づけを獲得し続けている。京都市そして北区から来年度も継続実施の要望が来ており、本年度も着実に高い評価と信頼関係を深めることができたと考える。今後も着実に、そして来校された保護者の方々からも高い評価と信頼をいただけるよう、内容の充実と良好な環境としての施設を提供すべく、整備と改善を積極的に進めていくことが重要である。

目標②としては、各子育て支援事業を、保護者支援の視点から見た保育者の役割について、今年度も年度末のレポートでほとんどの学生が「すくすく赤ちゃん広場」から学んだ意義について記述されており、この経験を通して学生達にとって大きな学習効果が見られたことがわかった。また、ボランティアとして活動した学生有志のグループ（子育て支援チーム）が菩提樹賞を受賞することが内定し、その取り組みが評価されている。

また大谷大学附属幼稚園である大谷幼稚園との連携強化の一環として「藤棚祭り」への参加もあり、幼稚園のイベントの雰囲気も経験することが出来た。実習生とは違う立場で園児達と接することは、学生にとって、子ども達との多様な関係の作り方を学ぶ良い機会になった。

さらに目標①、目標②を強化充実させるために、「学長裁量経費」や「学まち連携大学」事業と連動しながら学内事業としての整備と、公的な地域貢献事業としての整備の両面を着実に進めている。

[改善すべき事項]

- ・行動計画①②については、さらに充実・発展させていく。
- ・行動計画③については、「学長裁量経費」や「学まち連携大学」促進事業などの予算を活用しながら、学内施設状況を考慮して、効果的に整備していくこととする。
- ・行動計画④については、本学附属大谷幼稚園と連携を密にしながら、充実させていく。
- ・目標②について、本年度の学生主体のメディアへの子育て支援広報活動などを踏まえながら、学生が子育てボランティア等、積極的に地域と繋がる機会、さらに様々な機関と繋がる機会を提供したいと考え、学科としてどのような援助が出来るかを検討していきたい。
- ・現在、地域貢献事業が着実に成果を上げた結果として、プロジェクト数の増加と内容が多岐に渡っている。そのため今後は、各プロジェクト毎の深化充実を如何に実現して行くかが課題である。

4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

- ①「すくすく赤ちゃん広場」開催要項（打ち合わせ用）とまとめ冊子
- ②紫明学区子育てサロン「赤ちゃんにこちゃんサロン」の報告書（2回分）と案内ビラ
- ③北保健センターの「2歳児のこころとことばの成長」教室の開催要項
- ④「いないいないばあ教室」の案内ビラとメディアキャラバンスケジュールおよびプレゼン資料
- ⑤大谷幼稚園でのリレー講座開催要項

<自己点検・評価委員会使用欄>

<所見>

目標、行動計画をもとに着実に取り組みがすすめられている。また、改善点の記載項目があるとはいえ、その内容は課題点というより次年度への計画的な内容となっており、ここで報告されている内容とその成果は大変顕著であり、「S」評価に値する。引き続き、これまでの実績を活かしつつ、次年度以降も展開していただきたい。